

## 平成25年度予防接種協議会 議事録

【日時】平成25年8月27日（木）14時00分から15時15分

【場所】保健センター 大会議室

【出席者】委員4名

志水哲也、鈴木有紀子、木村隆、舟橋武仁

事務局5名

廣畑次長、江崎所長、千葉係長、山中主査、直井主査

欠席 委員2名 末永裕之、大野敏行

### 【次第】

1. 開会
2. あいさつ
3. 議題
  - (1) 予防接種（BCG、麻しん風しん混合、二種混合）の接種率について
4. 報告
  - (1) 平成24年度実績について
  - (2) 平成25年度予防接種について
  - (3) 予防接種事故防止について
5. その他
6. 閉会

### 【議事】

1. 開会（所長）

それではまだお時間が早いですけれども、委員の皆様方お集まりいただけましたので始めてまいりたいと存じます。本日は、ご多忙の中ご出席を賜りましてまことにありがとうございます。ただ今から小牧市予防接種協議会を開催させていただきます。本日欠席のご連絡をいただいておりますのは、小牧市民病院長の末永委員あと小児科部長の大野委員の二名でございます。この会議につきましては、公開となっておりますので、事務局で会議録を作成して、情報公開コーナーにおきまして公開させていただきますのでよろしくお願いをいたします。現在のところ傍聴希望はございません。それでは健康福祉部次長廣畑よりごあいさつさせていただきます。
2. あいさつ（次長）

委員の皆様方こんにちは。お世話になります。日頃から小牧市の保健行政にご理解とご協力いただきましてありがとうございます。また本日は大変お忙しい中、暑い中お越しいただきましてありがとうございます。予防接種の改正が大

変多く実施されている中で予防接種を実施していただいております医師会の先生方には大きな混乱もなくご協力いただき、心から感謝申し上げます。昨年9月には不活化ポリオワクチン、11月からは四種混合ワクチンの接種が開始されまして、今年の4月からはヒブ、小児用肺炎球菌、子宮頸がん予防ワクチンが定期接種となってきました。子宮頸がんワクチンにつきましては6月14日より積極的勧奨の差し控えとなっておりますが、ますます乳幼児期に接種する種類も増えてまいりました。また、昨年末より大人の風しんが流行したことによりまして愛知県も風しんワクチン接種緊急促進事業を開始されまして、小牧市におきましても7月1日より助成事業を開始をしてきたところでございます。医師会の先生方のご協力の下、円滑に事業を進めることができおりますことにも感謝させていただきます。今後も予防接種事故の無いように、また予防接種率の向上に努めるとともに事業を進めてまいりたいと考えております。より一層のお力添え、ご助言をお願いいたしまして、開会に際しての挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(所長) それでは、会長よりご挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

### 3. あいさつ (会長)

こんにちは。昨日まで少し涼しかったのですが、今日はまた暑くなっています。平素は予防接種行政でいろいろお世話になりありがとうございます。子どもの重い感染症も確かに減ってきており、我々は比較的安心して診療が出来るようになりました。以前は肺炎球菌やヒブなど重症化するのが非常に早くて、難儀をしたわけですが、このような疾患も非常に少なくなってきたようです。このようなワクチンで防げる病気を防ぐということは、子どもの権利条約にも定められていますので、予防接種が安全に行われるように、この協議会でも諮っていきたいと思っております。本日も色々ご意見賜ればと思っております。よろしくお願いいたします。

(所長) ありがとうございます。これより議事に入りますが、会長に議事の取り回しをよろしくお願いいたします。それでは会長お願いいたします。

(会長) それでは、「予防接種（BCG、麻しん風しん混合、二種混合）の接種率について」を議題とします。事務局より説明をお願いします。

### 4. 議題

「予防接種（BCG、麻しん風しん混合、二種混合）の接種率について」

(事務局 説明 資料1)

BCG予防接種について

昨年度まで4か月児健診に併せて保健センターで年間48回実施していましたが、BCGの定期予防接種対象者が平成25年4月1日より改正されたことにより、標準的接種対象年齢が生後5月に達した時から生後8月に達するまでの期間となりました。そこで、今年度より4か月児健診とは別の日に月2回保健センターにて実施し、実施日については予診票に同封し個別に日程を知らせています。また、広報やHPに実施日を掲載し、前年度対象者だった者に対しても日程が把握できるようにしています。

昨年度までは4か月健診と併せて実施しており、接種率は毎年97、98%程度ありました。4月からヒブ、小児用肺炎球菌の定期化と接種年齢の変更により年度始めの接種者数が減少しています。

次に、麻しん風しん混合（第1期・第2期）の接種率についてですが、麻しん撲滅の為、国の接種率目標値が95%と掲げられているが、第1期、第2期とも95%には達していない。

現在の小牧市の対応としまして、①接種勧奨の方法として昨年度まで就学児健診時にチラシを配布し、未接種者の保護者宛に接種勧奨の通知文の発送などを行っている。（昨年度勧奨通知の発送は10月と2月の2回）②23年度、24年度の第2期の接種率が90～91%と低率なことより、今年度から6歳児への予防接種調査票の発送を再開し、就学前の接種勧奨を強化しています。

次に二種混合接種率についてですが、例年80%までもいかずかなり低率である。現在の小牧市の対応としては、12歳の誕生月の翌月に対象者へ予診票を個別発送しています。この二種混合については、毎年のように検討内容には入っていたようですが、接種率の向上に至っていないのが現状です。これらの予防接種について接種率を向上させる為に勧奨内容等のご意見、ご提案をいただければと考え、今回の協議内容とさせていただきます。

（会長） ありがとうございます。ただいまの説明につきまして何かご質問等ございましたらお願いしたいと思いますが。BCG、麻しん風しん混合、二種混合の三種類ですが、BCGは今年から変わって、対象者が5か月から8か月になり個別接種で行っている自治体もありますが、小牧市では個別接種ではなく、保健センターで行っております。まだこれは中途ですね。昨年までは97%以上の接種率があったのが、現在のところ71.3%というのは。

（事務局） BCGについては、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合の接種を初回の3回接種まで終わってからと考えている保護者も多いと思われますし、先生方も接種の途中でBCGを入れ、3～8週の定期的な間隔の接種のうち損ねるといったことのないよう、3回目の接種が終わってから次はBCGをとい

うふうに保護者への案内をしていただければと思います。  
今後は徐々に接種率も上がってくるのではと思っています。

(会長) 確かにそうですね。他に何かありますか。  
3回終わったところで声かけをしていただくようにすると接種率が上がる  
と思います。BCGについては他によろしいでしょうか。  
そうしましたら、麻しん風しん混合の接種率についてです。これも国は麻  
しん撲滅の為には95%の接種率が必要とっておりますが、平成24年  
度は第1期が94.3%、第2期が91.8%となっておりますね。  
今年の愛知県内のはしかは7、8例の報告、あるいはもう少しありました  
か、そのうち小牧で1例報告されています。罹患したのは5ヶ月の児でし  
た。その後小牧からの報告はないようで、他に感染が広がらず良かったと  
思います。就学児健診の時にワクチン推奨のチラシを渡しているのですね。

(事務局) 昨年までは就学児健診の時にチラシの配布を行っております。  
今年にはさらに未接種のものがある6歳児へ調査票を送付しており、  
現在12月生まれまでの子に発送しました。9月には1月から3月  
生まれの未接種のものがある子達に送付し、就学児健診の前までのタイ  
ミングで手元に届き、接種の動機付けになればと考えている。  
これにより、昨年の91.8%という接種率よりさらに向上できるよう期待  
している。

(委員) PRも必要ですが、2回うたないと学校へ行けないというくらいの  
ことを言ってもよいのでは。私はそのくらいの気持ちで母親達に説明  
をしている。2回うっていないとアメリカにも行けないわよと話す  
と母親達も納得している。

(会長) アメリカでは2回うっていないと学校に入れてくれないから。  
私は「アメリカでは」とつけて説明していますが。  
健診医が一声予防接種について声をかけることも必要だと思う。  
もう一つは学校の先生からのPRや接種勧奨をやっていただければと  
思う。

(委員) 是非やっていただきたいですね。  
2回接種すればはしかもなくなる可能性もでてくるわけですから。

(事務局) 就学前において、学校、保育園、幼稚園等への接種勧奨の協力依頼につ  
いて再度検討します。

(会長) 次に二種混合。これが非常に接種率が悪いのですが、現在は個別発送だけですか。

(事務局) そうです。他市にも伺っておりますが、同様に接種率はどの市も悪いというもの、80から85%位の接種率があります。接種勧奨の方法を考えた方がよいのか、送付時期を6年生になった時期にし、ちょうど春先は学校行事などもあるので、親同士の口伝いを活用し、接種率を上げていけるのか。あるいは、二種混合は11歳から接種が可能ですので、11歳になったところで送付し、接種できる期間を長めに確保したらよいのかと思案中です。

(委員) 11歳で送付したほうがよいのではないですか。中学生になってくるとなかなか親の言うことを聞かなくなるし、年齢が小さい方が親も病院へ連れて行きやすいと思います。大きくなれば抵抗も強くなる子もいますから。

(会長) 教育委員会のほうへお願いすることはできないでしょうか。担任の先生からも一言言って頂けるよう教育委員会に協力してもらえるとよいと思いますが。11歳になった時に全員に送るようにするということですか。

(事務局) 現在12歳の誕生日に送付しているものを一年繰り上げるということになります。

(委員) よろしいでしょうか。予診票を送る時に、先ほど鈴木先生もおっしゃいましたが、今なぜこの予防接種をうつ必要があるのかという予防接種の必要性を訴えるような、ただ単に接種時期がきたからというだけではなくて、保護者にわかりやすく説明していくということも大切ではないか。配布している通知文の見直しも必要であると思う。

(会長) 確かに今まではそのような視点からの通知文ではなかったかもしれないですね。2期の接種の必要性をなるべくわかりやすく記載して保護者宛に送付するといったことも大切ですね。

(事務局) はい。ありがとうございました。今後通知文など周知をする際に内容を再度検討していきたいと思いま

す。

(会長) それでは、この議題について他にはよろしいでしょうか。特になければ次に移りたいと思います。

それでは、報告の1、2にはいります。

平成24年度の実績についてと平成25年度予防接種について事務局から説明をお願いします。

5. 報告 (1) 平成24年度の実績について (事務局説明 資料2)

(会長) ただいまの報告につきまして何かご意見、ご質問はありますか。四種混合については品切れなどということはなくやれてましたか。

(委員) はい。大丈夫でした。

(事務局) 年度始めの頃は品薄の状況があり、医療機関によっては入手が困難であるということも聞いておりましたが、現在は流通の方も滞ってはいないようであると聞いておりますが。

(委員) 7月頃も結構なかったようですね。今は大丈夫のようですね。

(会長) 今年は風しんが流行しましたが、私の所には15歳の男子が一人だけ来ました。その子は中1の時の第3期の接種がされておらず、また、幼児期にも接種をしていなかったようで、典型的な風しんでした。幸い順調に経過しましたが、その子から他への感染があったか否かはわかりませんでした。

(委員) MRに関しまして、風しんだけの単独のワクチンがもっとあれば良いと思うのですが。MRとなると単価が高いので風しんの抗体だけをつけたい方には風しんの単独ワクチンでいいと思います。

(会長) ひとつ伺いますが、指定医療機関外の補助事業というのは市外で接種する人に対して補助を出すというものですか。

(事務局) そうです。里帰りなどで県外に行かれる方に対し、接種料金を償還払いで対応しています。事前の申請が必要です。

(会長) 他にはよろしいでしょうか。それでは報告(2)をお願いします。

6. 報告 (2) 平成25年度予防接種について

(事務局説明 資料3)

(会長) ただいまの報告(2)について何かご質問等がありますか。  
子宮頸がん予防ワクチンの接種者については勧奨差し控えによりぐつと接種率が落ちたと思います。この子宮頸がん予防ワクチンについては、小牧では何かはっきりとした副反応の報告はないですか。

(事務局) はい。今のところ重篤な副反応の報告はありません。

(会長) 定期外予防接種となった理由については何かわかりますか。  
忘れていたとか、そういった理由が多いですか。

(事務局) そうですね。忘れていたという理由が一番多く、次に接種しようと思った時に病気にかかり、時期を逃したという方もおります。また、以前は7歳半未満まで接種が可能だった時期もあったため、勘違いされておられる保護者の方もおられるようです。毎年入学式後に接種に行かれる方もおみえになり、保護者へももちろんですが、接種予約を取るときなどに再度注意を払っていただきたいので、年度末に医療機関へのお願いなどの対策を考えていきたいと思っています。

(会長) 他にはありませんか。  
愛知県全体の予防接種の広域化が来年の4月から行われるかどうかですね。これはあくまでも体調をよく知るかかりつけ医で行えるようにするのが一番のメインです。この広域化は小児科医会で以前から取り組んできたことですが、いままでは尾北医療圏だけが広域化されました。今度は漸く県全体でやるという方向で進んでいます。まだ色々問題があるようです。  
他にはよろしいでしょうか。それではないようですので、報告(3)にうつりたいと思います。

7. 報告 (3) 予防接種事故防止について

(事務局説明 資料4)

(会長) 24年度は県内158件中27件ということで多いかなと感じます。  
これにつきまして何かご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。  
やはり保護者の人もこれだけたくさん種類があるとなかなか難しいですよね。医者もくたびれてしまいます。接種間隔が本当にこれでいいのかどうかとか。あまりにも今種類が多いので、かなり神経質にみてい

るのですが。少しでもなくなると困るなあと思います。兄弟の取り間違いだとか、ワクチン間違いだとかですねそういうケアレスミスがやっぱり一番あってはいけないことですが。

今年は大いぶ少ないですね。今のところは。

(事務局) はい。

(所長) 先生、一点よろしいですか。現場の様子を教えてくださいたいのですが、ヒブとか小児用肺炎球菌とかが増えまして、接種間隔って先生方も大変でしょうし、お母さん方も大変。接種におみえになるお母さん方でご自身できちんと管理ができる人って今どれくらいおみえになるのか。感覚で結構なんです。うちもいろんな通知の中に工夫をして、その大体の月齢でここでどういう接種をしましょうというような、表にしたものをお渡しするようにはしているのですが、どのくらいのお母さんがご自身で管理ができていますのでしょうか。

(委員) うちではですね、看護師を一人つけて説明をさせているのですが、毎回毎回次ぎは何をやる等のことを聞かれるのでかなりベテランの看護師が教えているのですが、それでも間違いが起こるんですね。だから、お母さんたちは結構大変なんだろうと思いますよ。本当にわからないので、次になにをやったらいいのですかと言われる方がかなりいらっしゃいますので。小さいお子さんをお持ちの方はかなり困ってらっしゃる方がおみえになると思いますよ。紙に予定表を書いて渡しているみたいですが、それでもやはり間違いは起こりますね。

(所長) 予定を立ててもお子さんの体調もありますので、また狂ってきってしまう場合もありますよね。

(委員) 体調が悪くてもやらなきゃいけないと思っている人もみえますし、少し悪いと絶対にやれないと思う方もみえて、その辺の判断も難しいと思います。

(所長) 事務局としてこういう予防接種事故を予防していく為に、事務局としてできることも考えていかなければいけないなあと思っておりまして、それは保護者向けの物もあれば医療機関さんあての物があればと両方で何かやっていかなきゃいけないなと考えてます。そんな中で保護者の方々が一体どれくらい本当に自分で管理ができていますんだろうということが、ずっと疑問でしたので。きちんにご説明をしないと

難しいかたの方が多いということですね。

(会長) 説明して分かってくれるかたはまだいいのですが。そういう人ばかりではないので。

(委員) 私も毎回毎回見ながら、自分でもチェックしながらやります。そうではないと怖いから。何か間違えるといけないと思って。何が終わっているのか確認しながらやっています。

(所長) そうしますと、予防接種をされるときに今まで以上に人手がいるということですか。

(会長) います。  
前の日にカルテをみてチェックをして、それでもなかなか難しいときもある。

(委員) 母子手帳がない方には私は最初からうたないと言っているのですが、持ってきてない人にはうちませんと書きます。そうしないと、お母さん方も接種日などきちんと覚えていらっやいけませんから、それは怖いことなので、母子手帳がない方はうちません。間違いが occurs しますので。お母様の記憶は結構曖昧な物です。ですから、母子手帳で確認することが一番だと思っています。

(会長) それと、最近任意の予防接種をやりたい人が増えてきて、ロタとかB型肝炎だとか。ロタは2種類あって、2回飲むのと3回飲むのとそれも複雑になっており、どちらのワクチンなのかよっぽど気をつけてやらないと。

(委員) 本当に困りますよね。費用は大体2回飲む物、3回飲む物同じようになっているといいますが。

(会長) 子宮頸がん予防ワクチンも2種類ありますしね。説明にも非常に難儀をします。どちらがいいかと聞かれても、なかなか難しい問題です。それから以前肺炎球菌ワクチンで大人用と子供用の接種間違いが報告されていました。肺炎球菌ワクチンといって注文するので、問屋さんが大人用を納入し十分な確認なしで接種したとか。注文の際には市販名（プレベナー）で注文してほしいと。  
それから子供を固定するための押え役も必要ですね。最高4箇所う

ちますが、先生は何箇所うたれますか。

(委員) 私は2箇所までしかやらないです。怖いからです。

(会長) 押さえるのが大変だし。ここ押さえて、ここ押さえてという感じでやらなきゃいけないから人手もかかる。

(委員) そうですね。だから私はもう怖いので、2箇所までしかやりません。それと、1つずつやっていきたいと言われる方もおみえになるので。

(会長) 小児科学会は同時接種は問題ないことを示しています。ただあまり問題はないと思うが、発熱した時にどのワクチンで発熱したのかということがわからないということがある。肺炎球菌は発熱する確率が高いとは思っているのですが。

(所長) 先生、これってもうそろそろ、3種、4種とかって出てきますか。

(会長) 今、開発にはかかっていると思いますけれど、ベルギーでは6種混合、7種混合とかっていうのがありまして、7種でした、6種でした。

(委員) 6種。

(会長) ですね。だから外国のようになってくれないと大変ですよこちらも。

(委員) 大体今、MMRですしね。それが当たり前ですもんね。

(所長) いずれはありますか。

(会長) いずれはあると思う。

(所長) 近いところで、3年、4年・・・分らないですよ。

(会長) いずれはそうなると思う。  
早いと一年くらいで出るのかもしれませんがね。

(所長) それは定期になりますよね。

(会長) なると思います。  
ロタワクチンも今定期にしようとしている。厚労省が今度何か調査

を始めるようです。ロタの。ロタウィルスの重症例の調査。それはワクチンではなく、重症例を入院の方で調べると思うのですけど。

(所長) では、定期的にしようというような、そういう国の方の動きというのはロタとB型肝炎ですか。

(会長) そうですね。水痘やおたふくかぜを含めてということもあるにはあるのですが。

(所長) この4月からってというようなこともちらほらと聞こえてきていますけれども。

(会長) 昔はMMRもありましたからね。日本は非常に副作用に敏感で。

(委員) そうですよ。日本人はそうなんですよね。外国の方はあまり文句を言われません。ワクチンってのは菌を入れるから当たり前で思っている方が多いので、そう考えるとちょっと怖いところもありますが、日本人はちょっとやってそれですぐ熱が出たらワクチンのせいだとおっしゃる方がいらっしゃいますから。そんなすぐに副反応は出ませんということもありますけど。本当に何かちょっとある毎に止めてしまうのは良くないと思うのです。それで、日本脳炎みたいにまだ病気があるのに止めてしまって、いつのまにかまた接種勧奨を始めているのですから、あれもおかしいですよ。

(会長) 電話予約をとるにしても、これだけワクチンが沢山あると大変です。まず前に何をやったかを聞いて、今度は何をやったらいいかなどや間隔など説明しなければいけないので、予約に一人かかりっきりになりますよね。

(委員) そうですね。人手が要りますね。

(事務局) うちもかなりそれで時間をとられています。

(会長) とられますよね。

(事務局) はい。そうです。

(会長) それでは、予防接種事故防止については、事故の実績報告も出して

いただいた方がいいですね。こういう項目について、こういう事故がありましたので気をつけてくださいというような。やっぱり、接種医療機関に流すべきだと思います。

(所長) そうですね。24年度についてはながさせていただきましたので、毎年それは行ったほうが良いですね。

(会長) それでは、報告(3)はこれでよろしいでしょうか。では、これで報告事項も終わったわけですが、何か委員の皆さんで協議事項はありませんか。ございましたらお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。  
では、ないようですが、事務局のほうから何かありますでしょうか。

(事務局) はい。鈴木先生のほうから事前に「麻しん風疹ワクチンの不足について」、「子宮頸がん予防ワクチンについての考え方」ということで質問をいただいておりますので、このことについて補足させていただきます。

まず、「麻しん風しん混合ワクチンの不足について」ですが、本日上に配布させていただきました『参考資料2』をみていただくとお分かりになると思いますが、当初予想されていたような不足になることなく、麻しん風しん混合ワクチンについては、現在順調に供給がされております。

風しん単独ワクチンについてはもともとの生産量が少ないため流通量も限られてくるとメーカーからも聞いております。

麻しんの抗体も獲得できるという点から、麻しん風しん混合ワクチンでの接種において問題ないことを問い合わせのあった方には説明しております。

次に「子宮頸がん予防ワクチンの考え方について」ですが、先にもお話しさせていただきましたとおり、6月14日より『積極的な接種勧奨の差し控え』となっております。厚生労働省の通達通り、『定期接種の中止』とは対応が異なりますので、接種を促す個別通知の発送など接種を強く呼びかけることはしておりませんが、定期接種として希望者に接種することは行っております。

もう一点今後開始となるワクチンについて事務連絡させていただきます。先生方は既にうかがっておられるかもしれませんが、毎年10月15日より開始させていただきます高齢者のインフルエンザについてですが、先日ワクチンメーカーの方よりお話があり、麻しん風しん混合の検定作業が押しているため、例年より1週間ほ

どインフルエンザワクチンの流通にも支障をきたす恐れがあるため開始時期を検討してほしいとのことでした。しかしながら開始時期としましては例年通りを予定しておりますので、各医療機関において接種日の調整をしていただければと思います。また、インフルエンザのワクチン不足ということはないそうです。

それから、現行の小児用肺炎球菌ワクチン、沈降7価肺炎球菌結合型ワクチンから沈降13価肺炎球菌型ワクチンへの変更が検討されており、11月1日から切り替えの予定と伺っております。

なお、詳細につきましては厚生労働省からの通達があり次第、お知らせしたいと考えております。

(会長) メーカーはインフルエンザについて10月15日位には入りそうだと  
言っているんですか。

(事務局) 一週間ほど遅れるとのことですが。  
しかし、ワクチンの不足という問題はないので、その後の流通には問題はないと思います。

(会長) ただいまの説明で何かご質問等ありますでしょうか。それではこれで  
よろしいでしょうか。  
特にないようですのでこれで終わります。事務局にお返ししたいと思います。

8. 閉会 (所長) それでは、以上を持ちまして平成25年度第1回予防接種協議会  
を終了いたします。本日は大変お忙しい中ありがとうございました。